

## 平成 27 年度(2015 年度)研究業績

### 1. 研究発表等

No	発表者	発表課題名	発表学会等	年月
1	正司和之ら	佐賀県上場地域で発生するタマネギ乾腐病に関与する <i>Fusarium</i> 属菌	日本植物病理学会報 81:266.	2015 年 8 月
2	大坪竜太ら	イチゴ「さがほのか」に対する 6~7 月の高温対策による増収効果	九州農業研究発表会 要旨集 78:151.	2015 年 8 月
3	中島正明ら	畑作地域の堆厩肥連用圃場タマネギ栽培の後作では 5 割以上の減肥が可能である	九州農業研究発表会 要旨集 78:157.	2015 年 8 月
4	古川智博ら	戻し堆肥処理による堆肥中の芽胞菌数の変動	九州農業研究発表会 要旨集 78:73.	2015 年 8 月
5	松尾洋一ら	ジベレリン等の早期散布による「青島 4 号」の長期貯蔵果実のクエン酸含量低下抑制	九州農業研究発表会 要旨集 78:200.	2015 年 8 月
6	正司和之ら	畑作タマネギを 6 か年間有機栽培した場合のべと病の発生状況および収量の推移	九州農業研究発表会 要旨集 78:158.	2015 年 8 月
7	正司和之ら	有機栽培畑作タマネギにおけるべと病の発生が収量に及ぼす影響ならびにビニル被覆をしない改良土壌還元消毒法の畑地への適用	有機農業研究者会議 2015 資料集:75.	2015 年 9 月
8	田代暢哉	データの表示方法: 平均値? 標準偏差? 標準誤差? 95%信頼区間の利用の勧め	EBC 研究会ワークショップ 2015 要旨集:1-6.	2015 年 9 月
9	正司和之ら	機械定植で問題になるタマネギ乾腐病対策としてのセル成型トレイへの殺菌剤灌注処理による予防効果のメタアナリシス	EBC 研究会ワークショップ 2015 要旨集:37.	2015 年 9 月
10	正司和之ら	タマネギ乾腐病対策としてのセル成型トレイへの各種殺菌剤灌注処理効果のメタアナリシスと経済性	日本植物病理学会報 82:78.	2016 年 2 月
11	田代暢哉ら	ハウスミカンすす斑病に対する Evidence-based Control (EBC) の実践	日本植物病理学会報 82:79.	2016 年 2 月
12	松尾洋一ら	ジベレリン等の早期散布による「青島 4 号」の長期貯蔵果実のクエン酸含量低下抑制	園芸学研究 第 15 巻 別冊 1:50	2016 年 3 月

2. 刊行物（ホームページでも公開）

No.	刊 行 物 名	年 月
1	平成 26 年度業務年報	2015 年 5 月

3. 著書・解説

No.	著 者	題 名	掲載誌	年 月
1	正司和之ら	畑土壌中のタマネギ乾腐病菌 ( <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cepae</i> ) 密度推定の試み	生態と防除研究会 ニュースレターVol.7	2015 年 5 月
2	田代暢哉	Study on the improvement of fruit tree disease management using evidence-based control	Journal of General Plant Pathology81:470-475.	2015 年 11 月
3	田中 守	超早掘りで通年貯蔵も からゆたか	現代農業	2016 年 2 月
4	中島正明	農業のトビラ 上場営農センター 畑作・経営研究担当	グリーンプズ佐賀の野菜	2016 年 3 月

4. 公表した研究成果情報

No.	情 報 名	担 当
1	薬草トウキ種子の水選での最適浸漬時間は3時間である	畑作・経営
2	堆厩肥を連用している上場地域のタマネギほ場では有効態リン酸とカリが過剰に集積している	畑作・経営
3	堆厩肥連用圃場でのタマネギ2期作における冬どり栽培は8割の減肥ができる	畑作・経営
4	堆厩肥連用圃場でのタマネギ2期作冬どり栽培は8割減肥でも後作の春どりタマネギの収量には影響しない	畑作・経営
5	堆厩肥連用圃場でのタマネギ後作のカンショは無施肥でも栽培ができる	畑作・経営
6	中晩生タマネギでは収穫2週間前時点で葉の50%以上が残っていれば収量は低下しない	畜産・果樹
7	ハウスミカンに発生する菌核病への対応	畜産・果樹
8	黒毛和種去勢肥育牛は生後24か月齢で出荷できる	畜産・果樹